

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成23年11月30日現在

今月の重点活動

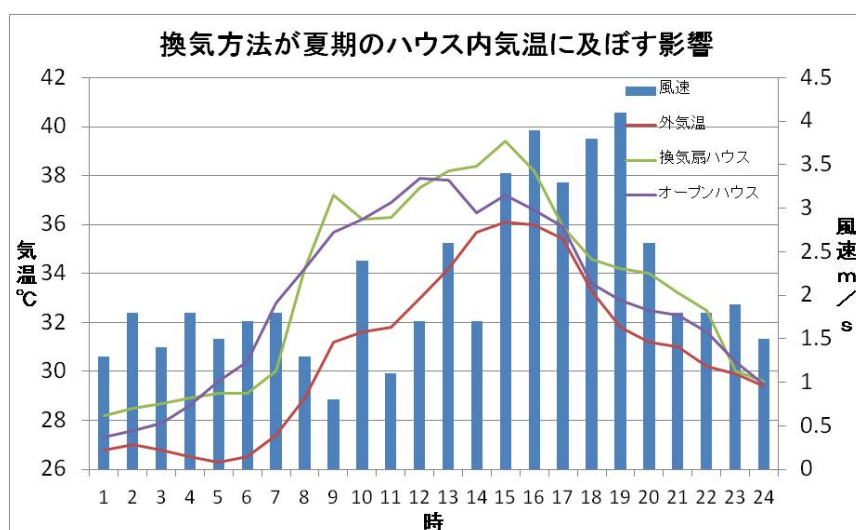
■アスパラガス（活力ある新産地づくり支援事業）

オープンハウスは省エネなのか？

（内容）農業ハウスの換気方式は、自然換気方式と強制換気方式（換気扇・循環扇）に大別されますが、羽島市のアスパラガスでは、強制換気方式（換気扇（表1））を普及している。今回は、自然換気方式（節電対策）に着目し、オープンハウス（写真）の実証展示を行っている。オープンハウスを羽島市内に建設して、夏期のハウス内の光度・気温・換気状況調査（グラフ）を行い、今後のハウス内温度管理の参考とするデータを収集している。



（表1）換気扇にかかる電気代調査結果
間口6m*長さ45mハウス一棟
換気扇一機（センサー30℃稼働設定）
電気料金（基本料金を含む）



	11月	¥628
平成22年	12月	¥273
	1月	¥273
	2月	¥273
	3月	¥583
	4月	¥691
	5月	¥638
平成23年	6月	¥628
	7月	¥1,060
	8月	¥1,083
	9月	¥1,158
	10月	¥910
	合計	¥8,198

主要農作物の生産振興

■水稲

（水稲栽培暦作成指導）

H24 水稲栽培暦について11月14日にJAと検討会議を行った。今年の水稲が全般的に収量・品質はまずまずであったこと、展示ほを設けて調査した農薬・肥料の中で結果が良好なものが少なかったことから、栽培暦は小幅の変更にとどめる方針とした。会議では近年のコシヒカリの収量低下傾向が課題として取り上げられ、土づくりの推進や施肥改善試験をすることとした。

（米粉用米「北陸193号」契約量確保）

昨年に引き続き米粉用品種として、芥見地区で展示ほを設けた「北陸193号」(13a)は、10月28日に収穫された。昨年は獣害等により契約数量が確保できなかったが、今年は植付時期を早めることで増収をねらい、約600kg/10aを確保することができた。今後は米粉加工会社に出荷され、加工適性について調査を予定している。

■いちご

ハウス内環境制御のため測定装置を設置

ハウス内の環境制御を行い収量向上や省エネを目指し、農産園芸課や農業経営課の協力を得て、測定装置（温度、湿度、照度、炭酸ガス濃度を一括測定）をレンタル設置した。この装置により篤農家のハウス管理技術を数値化し、それを経験の浅い農家の技術習得を行うことが出来る。現在はデータの収集と分析を行いつつ、研修会や巡回でハウス内環境の適正制御指導を行っている。



【写真ハウス内環境制御装置】

ぎふいちごを加工品で

J A ぎふ岐阜市いちご部会では、青年部を中心に「ぎふいちご」のPRを行うため、いちごの加工品づくりを、岐阜商工会と地域企業やお菓子屋さんと連携して行ってきた。

その結果、濃姫パウダー、濃姫焼き菓子、まんじゅう、鮎菓子、ジェラートなど商品ができあがったため、「信金ビジネスマッチングフェア2011」「富山市食の祭典」「市岐商デパート」など、各イベントでPR活動を行い、普及課も支援を実施した。PRの結果、濃姫パウダーを使って商品を開発したいなどの問い合わせが入ってきており、加工用いちごの出荷体制づくりを生産部会、J Aと連携して行っている。



【写真 信金ビジネスフェア 2011】（名古屋）

「柿の匠」試験販売で好調！

糸貫柿選果場では今年度から糖度センサーが導入され、富有柿で17度以上の柿（赤秀・青秀・無印の3等級）を選別し、「柿の匠」として試験販売を11月10日から開始した。1日に5%程度しか出ないが、現在、単価はレギュラー品と比較して赤秀で3,500~1,000円、青秀で2,000~800円、無印で1,500~700円程度高く販売されている。なお、12月中旬から「袋掛け富有柿」の出荷が始まる。

（今年度⊗柿振興会では約10万果に被覆） 【写真 柿の匠】



地域の動き等

■（ぎふクリーン農業研修会実施）

てんこもり農産物直売所では、ぎふクリーン部会員の仲間づくりを目的に11月17日に研修会を実施した。農林事務所ではぎふクリーン農業の考え方や、登録品目の一つであるたまねぎの栽培方法を指導した。

■岐阜地域農産物直売所研修会

11月16日に農業普及課主催により岐阜地域農産物直売所研修会を開催した。参加者は加工品の重要性や加工品の開発についての講演、製造から販売までの活発な活動事例、営業許可の手続きについて受講し、今後の生産・経営に関して有意義な研修会となった。

【写真 岐阜地域農産物直売所研修会】

